

題材の目標

- (1) 形や色彩、模様、材料、場所などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさ、印象などを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
- (2) 日本及び諸外国の文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、人々の願いや、作者の意図と表現の工夫、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、人々の願いや、作者の意図と表現の工夫、美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

【準備等】 ワークシート、タブレット端末、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 作品鑑賞を通して美術の起源や、美術と人間との関わりを考える。</p> <p>★美術の起源や美術と人間との関わりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活をする中で、美しいと思ったことや気になったことを発表する。 ○先史の時代から人類が世界中で多くの造形物を生み出してきたことを知る。 ○日本でも縄文の時代から創造性豊かな造形物を生み出していることを知る。 <p>○教科書の「ラスコー洞窟壁画」がどのような材料でどのように制作されたのか話し合う。</p> <p>○映像から暗い壁画の状態を知り、なぜ古代人は暗い洞窟の中に巨大な動物の絵を描いたのかを話し合う。</p> <p>○人間と造形との関わりを理解し、なぜ美術が生まれたのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中にある美しさや気になる情景から、今も昔も芸術作品が生まれていることを伝える。 ・世界中に多くの遺産があることを知らせ、人類が残した造形物に興味をもたせる。 ・日本にも大切な遺産（造形物）が遺されていることを伝え、興味をもたせる。 <p>【評】 原始美術の造形的なよさ、意図と工夫などに関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書 p 34～35にあるラスコーの洞窟壁画には何が描かれているかを確認させる。</p> <p>【評】 形や色彩、模様、材料や場所に着目し、印象などをとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「造形的な視点」を確認する。</p> <p>・暗い洞窟の中になぜ巨大な動物の絵を描いたのかを2次元コードを読み取らせた映像から想像させる。</p> <p>【評】 原始美術の造形的なよさや美しさ、当時の人々の願いや、作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・人間が生きていく上で、造形活動が欠かせないものであったことを理解させる。</p> <p>【評】 原始美術の造形的なよさや美しさ、当時の人々の願いや、作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

何千年、何万年前に人類がつくったとされる造形物の中には未だにつくられた目的や役割が解明されていないものも少なくない。しかし、残された造形物からは現代の私たちが見ても、迫力や生命力を感じ取ることができる。本題材ではこうした迫力や生命力を放つ謎のベールに包まれた造形物を鑑賞することから、美術の起源や美術と人間との関わりを考えるきっかけとしたい。